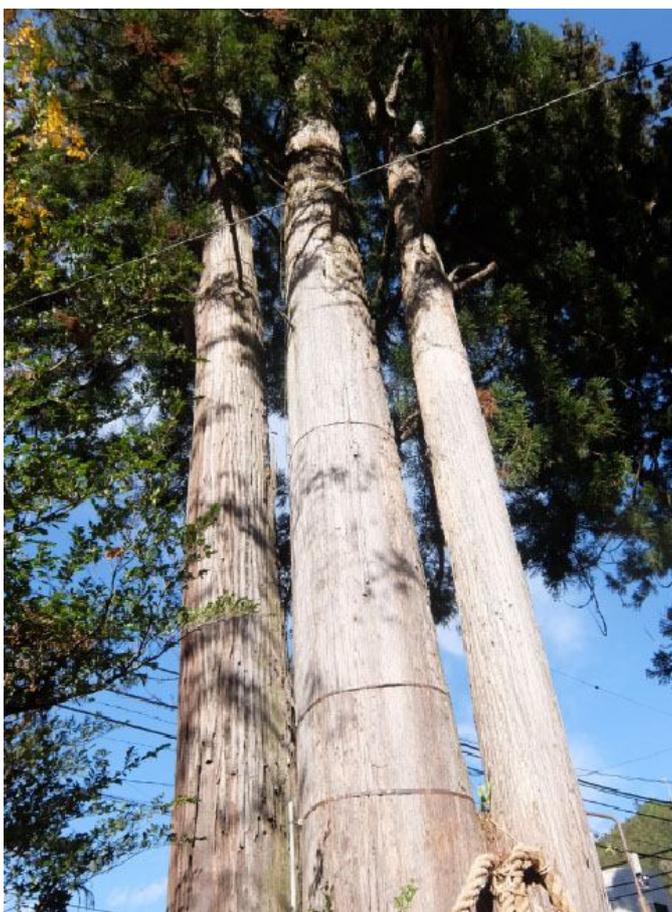


「奥多摩自然観察会(6)」

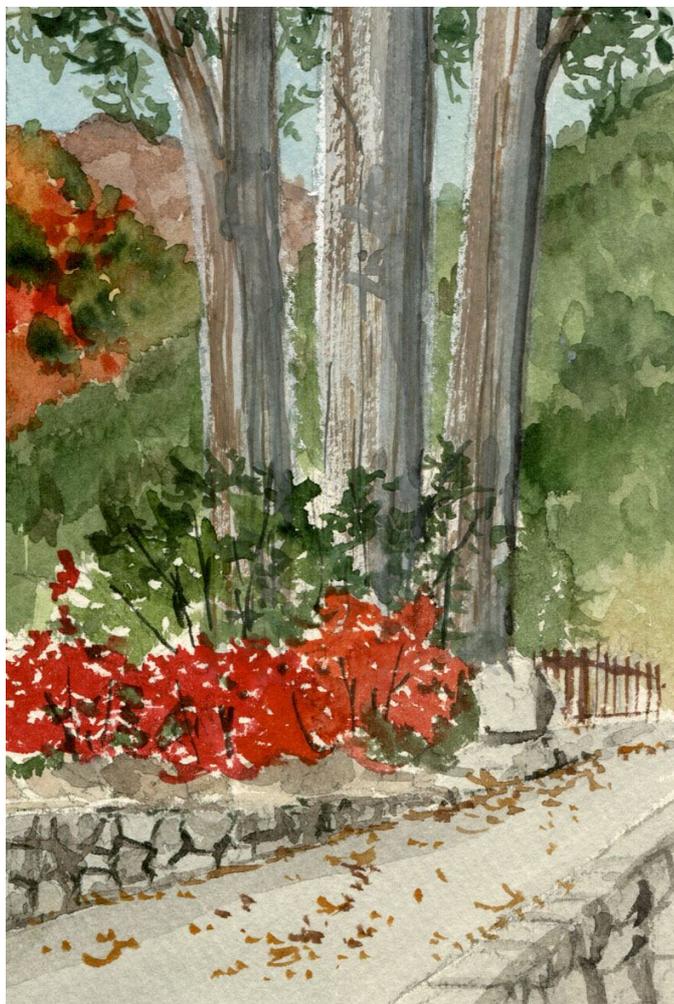
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

それにしても「氷川の三本杉」は高い！広角レンズで撮影しても、根元から樹冠までを一緒に写すことは難しい。これは絵に描く場合も同じで、この杉の全体像を一枚の紙に描くのは、たぶん不可能だろう。

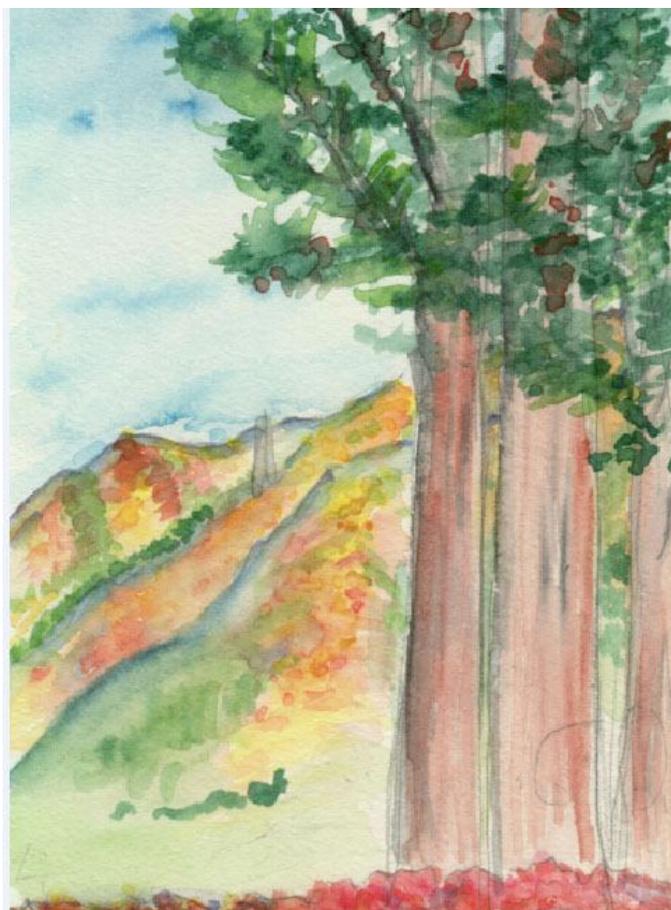


こうした「巨木」に限らず、背の高い樹木を見ると、常に不思議に思うことがある。樹木(植物)には心臓や循環系がない。自力で(積極的に)水分や養分を全身に行き渡らせる方法はないのだ。それなのに、地面から何十メートルも離れた、一番先端の葉にも養分や水分がゆきわたっている。

私はこの「不思議な現象の謎」を、行きのバスの中で学生さんに問いかけてみた。実は小学校6年生の理科の内容なのだが、学生さんはなかなか答えられない。ごく簡単に答えると、「葉による蒸散で、水分が引き上げられる」ということだ。もう少し正確に説明するには「水ポテンシャル勾配」「浸透圧差」「気孔」「光合成」といった用語が登場する。・・・まあ難しいことはともかく、みんなで三本杉を描いてみた。



これは私の作品。迷いがあり、時間もかかり過ぎた。



こちらは、生徒さんの作品。迷いがなくすばらしい。